

農山村の地域資源を次世代に

## 「都市と農山村をつなぐボランティア活動」

# とちぎ夢大地応援団

### 令和元年度とちぎ夢大地応援団活動の様子



佐野市多田



鹿沼市中粕尾

### 令和元年度とちぎ夢大地応援団カレッジ活動の様子



茂木町深沢



令和元（2019）年度とちぎ夢大地応援団活動が、5月に佐野市多田地区、9月に鹿沼市中粕尾地区でそれぞれ行われました。

また、とちぎ夢大地応援団カレッジ活動は、9月に第1回が茂木町深沢地区で行われました。（2～6頁に詳細）

はばたけ夢大地  
第27号 2019/12

とちぎ夢大地応援団事務局  
(公財) 栃木県農業振興公社  
栃木県農政部農村振興課

## 令和元年度とちぎ夢大地応援団活動の様子

令和元（2019）年度とちぎ夢大地応援団継続地区の活動が、5月に佐野市多田地区、9月に鹿沼市中粕尾地区でそれぞれ行われましたので、活動の内容を紹介します。

### 令和元(2019)年5月18日(土) 実施 佐野市多田地区 「再生農地の刈り払い」

令和元年5月18日（土）、佐野市多田地区で、「とちぎ夢大地応援団」活動を行いました。応援団に参加した人と、地元の柴田保全会の会員の皆さんと関係者を合わせて25名が参加し、再生農地の刈り払いに取り組みました。応援団活動は、農業農村の持つ豊かな地域資源を守るために、都市住民の作業ボランティアと地域住民が協働で農地の再生に当たる事業です。

同地区では、賀茂別雷神社周辺の再生農地の草刈りを春と秋に実施しており、今年で7年目に入りました。当初は荒れ放題だった土地が、活動を通じて整備が進み、イノシシの被害等も大きく軽減されました。参加者はこの日、全体約4haのうち、山際の約2haの草刈りに取り組みました。農業用ため池周辺に繁茂した雑草を中心に、刈り払い機を駆使して黙々と作業を行いました。午前中いっぱい作業をした後、昼食を囲んで参加者同士で意見交換会等交流を深めました。

ボランティア団体「ナルク栃木」の事業文化部長を務める鈴木忠男さんは、「私は農家の三男なので、農村が廃れていく姿を見ると悲しい。活動を通して少しでも力になればと思う」などと話していました。柴田保全会の会長で賀茂別雷神社宮司を務める毛利昭一郎さんは「活動を通して獣害は確実に減った」と成果を語りつつ、「水田を作っていた1戸が、高齢のためにやめることとなった。今後、これらの農地をどう活用するか、地域で良く話し合っていきたい」と話していました。



### 令和元(2019)年9月29日(日) 実施 鹿沼市中粕尾地区 「水路清掃・遊休農地の草刈り」

「19夢大地グランドワーク in かすお」が、9月29日、和田用水ホタルの里親水公園および周辺農地等で開催されました。当日は夢大地応援団員45名（他、関係者5名）や地元育成会・ホタルの里の会関係者など総勢120名が、ホタルの棲息地の水路清掃（主に外来生物のコカダナモの除去や草刈り）や遊休農地の草刈り、生き物観察会や水路脇等の休耕田への小松菜の種まきを行いました。今年の活動では、公園近くの荒れた農地約30aの草刈りが加わり、応援団員11名と地元の方とで雑草の草刈りをおよそ1時間にわたり行いました。水路清掃の後に行われた生き物観察会では、

自然観察指導員・渡辺知義さんの指導のもと、子どもたちが採集した水辺の生き物を大人たちと一緒に観察しました。

参加した子どもからは様々な水辺の生き物を見つけることができ楽しかったと感想を話していました。昼食は、地元の女性たちが腕を振るった地域でとれた食材がたっぷりのけんちん汁やおにぎり、ゆで卵などが振る舞われました。昼食の後の交流会では、参加者が感想を述べ合うなど地元の人との交流を深め合い、最後に記念撮影をして解散しました。



## 受入団体者 の声

柴田保全会会長（佐野市多田地区）毛利昭一郎さんから

### 夢大地応援団との関わりと変遷

柴田保全会会長 毛利 昭一郎

佐野市多田地区に位置する柴田地区の田んぼは2か所の溜池を背に4ha強の耕地面積で、18戸の所有者が維持管理しています。

但し、令和元年には耕作者ゼロとなる放棄田んぼです。高齢化とサラリーマン化が主な原因ですが、国道293号と東武佐野線の反対側に大半の耕作者が住んでおり何時しか耕作地と距離を置くようになったことが放棄田んぼを生む要因になったかもしれません。

それでも6年前迄は年1回4月に10人前後が集合し掘り浚いと草刈りをしておりました。しかし、1部分の処理が限界でした。3~4メートルの葦とススキがはびこり、更にその上に曼草が覆い草原ジャングルそのものでした。当然、鹿と猪が闊歩するようになりました。暫く開催されていなかった総会で対策を話し合うものの具体的な解決策が無く手をこまねいていました。



▲会長あいさつ

その直後、他地区の知人から“夢大地応援団”的存在を教えられ藁にも縋る思いで関係者を紹介して頂き面談の運びとなりました。

柴田地区を視察して頂いて応援団の内容を伺いましたが、当時は具体的なイメージが湧きませんでした。半信半疑でもありました。総会にて夢大地応援団に協力頂き大規模草刈り大会に臨むことが決定しました。事務局と何度も情報交換を交え11月に第1回目の草刈り開催日を迎える。県農業振興公社を中心に佐野市関連機関の応援、そしてボランティア応援団の方々が続々と集合し総勢30名強が大集合。

元柴田地保全会10名を合わせて40名の大集団が柴田田んぼに集結する様は異様な雰囲気を醸しだしていました。手に手に草刈り機や鋤、チェンソー等を備えて集合する姿は圧巻でした。段取り説明を終えて三々五々配置に着き“草刈りドラマ”が開演しました。30台程の草刈り機が一斉に作動すると爆音が鳴り響き異常な興奮を巻き起こしました。更に伐採の音、鎌で土手の草を刈るなどを横目に我々も必死で草刈り機を操作しました。昼になると、見たことの無い光景を目の当たりにして感動しました。広い田んぼの全体に草が無くなり見渡せる景色を初めて見た我々は絶句しました。この瞬間、参加した保全会のメンバーの意識が音を立てて変化しました。この感動を持続させたいと誰もが感じました。翌年5月、第2回目の応援団支援の草刈り大会が開催されました。低くなった草を刈る感覚は心地よいものでした。意識改革した我々は6月7月有志が集まり刈残しの草を刈りました。集まる度に奇麗になった田んぼを眺めながら感動に浸っていました。しかも、3回目以降は、草刈りだけではなく次に発展する手立てはないものかと意見が多くなりました。話題は出るもの、具体的な案が出ても誰が維持管理するのかとなると壁に乗り上げることになる繰り返しでした。サラリーマンが大半ですから無理もないことです。

応援団の皆様には駆けつけて頂く度に感動しております。応援団におんぶにだっこではなく、自主独立した保守管理をしなければと思いを巡らしております。それには知恵と情報ネットワークが必要です。農業振興公社をはじめ関係機関に相談し支援を頂きながら前進していきたいと考えております。



▲草刈前



▲草刈後

## 茂木町 深沢地区 「いちご苗の定植作業」

9月14日(土)、栃木県茂木町深沢地区にある「美土里農園」で、令和元(2019)年度第1回「とちぎ夢大地応援団カレッジ活動」を実施しました。宇都宮市の帝京大学経済学部の学生と教職員合わせて15人が参加。同農園の観光農園用ハウスで、いちご苗の定植作業を体験しました。

カレッジ活動は、未来を担う若い世代に、農作業や農村資源の保全活動を体験してもらい、農業・農村の果たす役割について理解を深めることが目的です。県内の大学や短大、高校生などが参加して、毎年各種の活動に取り組んでいます。



この日、作業に携わったのは、帝京大学経済学部地域経済学科の学生たちで普段、農山村をはじめ地域が抱える課題解決に向けて勉強しています。今回は農作業を実際に体験できる貴重な機会として参加しました。

いちご苗の定植は、学生たち全員が初めての経験。同農園の職員らの指導を受けながら、観光農園用のハウス4棟に苗を植え付けました。中腰になっての根気のいる仕事ですが、若いだけあって弱音を吐くこともなく、手際よくこなしていました。

さくら市出身の3年生の和久井智之さんは「農作業自体がほとんど初めてで、想像以上に大変。高齢化など農業が抱える課題も勉強しているが、その苦労が実感できた」と感想を語りました。



▲作業の説明



▲留学生から研究報告も



▲作業を待ついちご苗



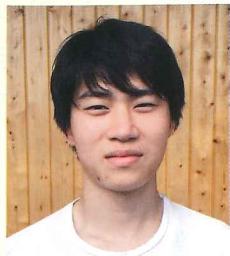
▲参加した皆さんで記念撮影を行いました。天気もまづまづで作業もはかどりました。



## とちぎ夢大地応援団カレッジ活動に参加してみて (感想文)

経済学部地域経済学科2年 和氣 啓志

私は茂木町にある美土里農園さんでいちご苗定植のお手伝いをさせていただきました。そこで私は、従業員に海外からの技能実習生が多くいることに驚きました。メディアでは海外からの技能実習生を受け入れていると報道されていますが、それを肌で感じたことは今までありませんでした。日本の後継者不足や人手不足の現状を改めて思い知らされました。また美土里農園の元社長である矢野さんから、農業経営についてのお話を聞くこともできました。私の実家は細々とした兼業農家で、自分たちで食べる分だけ作ってきたので、農業と経営というものが結びつきませんでした。しかし、矢野さんから経費削減や生産性向上を図りながら作物を作るというお話を聞いたことで、農業経営の楽しさや難しさを知ることができました。今回、とちぎ夢大地応援団カレッジの活動に参加したことで、ボランティア活動だけではなく、それ以外の面でも沢山の経験を得ることができました。このような活動に参加できる機会がありましたら、また参加したいと思いました。



経済学部地域経済学科3年 大村 恒弘

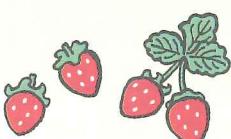
今回は茂木町深沢地区の農業体験施設「美土里農園」でいちご「とちおとめ」の苗の定植作業などを行いました。いちご苗の定植は初めてだったので、植え方や作業のコツを教えてもらいながら作業を行いました。また、とてもやさしく教えていただき、楽しく作業をすることができました。日頃は、市場でしかいちごを見ないので、いちごがどこで、どのように作られているのか知りませんでした。そのため、今回の農業体験は自分の知らなかつたいちごの裏側を見たように思え、とても貴重な体験ができたと思います。美土里農園は観光農園ということで、苗の縁が映えていて、やりがいを感じました。昼休みには同農園の設立に関わられた矢野健司さんから美土里農園や農業経営についての奥深さを知ることができました。生産過程を知ることが減ってきており、このような体験を通じて知らなかつた世界を知ることができ、食べ物や農業に対して考えるようになり、とても充実した時間を過ごすことができました。



▲いちごの定植作業の様子



▲指導する農園スタッフ





## とちぎ夢大地応援団カレッジ活動に参画して

帝京大学 経済学部地域経済学科助教 林田 朋幸 氏

帝京大学経済学部地域経済学科は、2019年度とちぎ夢大地応援団カレッジに参加させていただいている。本学科において、現地での実習は重要な位置を占めている。本学科は「フィールドワークを織り込んだ実学重視の教育」を掲げている。例えば、2018年度は栃木県内を中心として行政・観光・祭礼・ボランティア・生活環境等に関する現地実習を実施した。本学科学生の関心の一つに過疎高齢化や遊休農地の増加といった農山村に対する問題があり、農山村での現地実習を希望している学生が多くいる。しかし、当学科ではこれまで学生の現地実習に関する要望に対して必ずしも十分に応えることはできてなかったと思われる。理由として、農山村での現地実習に参加できるのは一部のゼミに所属した2年生以上の学生に限られることや、現地実習の受け入れ先を見つけることが容易ではなく、かつ日程・作業内容の調整が難し事が挙げられる。また、サークル活動等の授業外でも農山村で活動する機会はほとんどなく、学生の多くは農山村での活動を希望しながらもどうすれば良いのか方法がわからない状況であったと思われる。そのため、農山村で現地実習を行うことができるとちぎ夢大地応援団カレッジ活動は学生にとって貴重な機会であると判断し、当学科で参加することになった。



第1回の活動である9月14日の茂木町美土里農園でのとちおとめ苗定植の作業では、参加した学生14名のうち10名が1年生の参加となり、農山村での現地実習が初めての学生が過半数を占めた。学生からは、「農作業が想像以上に大変だと知った」「疲れたが非常に楽しかった」という、農作業を実際に行ったからこそ得られた感想を多く聞くことができた。また、「茂木町や美土里農園の農業経営について具体的に聞くことができて農業に関する理解を深めることができた」との声があり、現場で携わる方々に実際に話を聞かせていただくことで、今まで学んだ知識をより深く理解し、かつ新しい知識を得ることができたといえる。さらに、「美土里農園や行政の関係者の方々と話すことができ、楽しかった」という、普段の大学生活では滅多に接することができない立場・年代の方々と交流を深めることができたことに対する喜びの声があった。他に、将来農業に関わりたいと考えている学生にとっては、これまで漠然としていた将来像をより具体的に想像することに役立ったようである。以上から、第1回の活動からは学生は多くの学びを得ることができたといえる。また、とちぎ夢大地応援団カレッジの参加は、安心して現地実習を実施することができるという点でも非常に恵まれている。2005年から継続して行われているとちぎ夢大地応援団カレッジ活動ならではの細かな心配りには本当に感謝しており、引率者として学ぶことも多い。本大学に限らず、農山村での現地実習は多くの大学で求められている。とちぎ夢大地応援団カレッジ活動が今後も継続されることを期待している。

### とちぎ夢大地応援団

事務局 (公財)栃木県農業振興公社  
農政対策部

とちぎ夢大地応援団  検索

〒320-0047 栃木県宇都宮市一の沢2-2-13  
☎ 028-648-9515 FAX 028-648-9517  
<http://www.tochigiagri.or.jp/yumedaichiouendan/yumedaichi/index.html>

栃木県農政部  
農村振興課

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20  
☎ 028-623-2334 FAX 028-623-2337